

唐沢川の土手沿いには、一面の菜の花と少しずつ咲きほころび始めた桜の花の蕾。うららかな春の陽射しに、卒園期を迎えた年長児の凛々しい顔つきが一段と輝いています。2022年度の北埼玉の交流は、各園のコロナの感染状況を見ながら、少数園での交流や2回行った合同リズムでした。合同リズムは、残念ながら参加できない園もありましたが、会場園となったさくらんぼ保育園の広く開放的な園庭で気持ち良くリズムをし、担任や園長が何も言わなくても子ども自身が自分の目で見て感じ、自ら変わる6歳の子ども姿を見ることができました。

合同リズム 会場：さくらんぼ保育園

第1回 9月30日(金)
参加園 ゆずの木・くるみ・たんぼぼ
ふきのとう・さくらんぼ
第二さくら



第2回 11月25日(金)
参加園 ゆずの木・くるみ
くわの実・たんぼぼ
ふきのとう・さくら
さくらんぼ

11月の合同リズムは、秋の実践交流連絡会後だったので『世界こどもデー』のことをさくらんぼ保育園が作成した(子ども達・保護者に記入してもらった)掲示物を見せながら大島さんから話してもらいました。「子ども達はみんな、元気に遊んで食べて眠って自分の思いを話して、幸せになる愛される権利がある」と話されました。現在のロシアとウクライナの問題も各保育園で話している様子で、子どもたちも真剣に聞いている姿がありました。

～合同リズムの感想～

・コロナ禍で他園との交流が中々できない中での実践交流会。他園の年長の姿は、子どもにも大人にも良い刺激となり、全員の子どもの声が響き渡った歌は全身の毛穴が開くほど感動しました。自園の子どもたちも歌は好きですが、渡し方が中途半端になっていると感じ、園に帰ってからは歌いきることを意識しています。11月の実践交流会では、生まれ月ごとに分かれてのリズムも行いました。コロナ禍前までは、この時期当たり前に月ごとに分かれていましたが、貴重な経験をする大切な場だったことを改めて感じました。(ゆずの木)

ふきのとう・さくらんぼ交流 10月5日(水)

いつもはふきのとう保育園がさくらんぼ保育園に行かせてもらっての交流でしたが、今回はふきのとうに遊びに来てもらえることになり、子どもも職員もこの日をとても楽しみにしていました。ふきのとう保育園の園庭には芝山があり、その芝山を使ってリズム遊びをしました。ふきのとうの年長さんは、9月の中旬頃から毎日のように芝山を使ってリズム遊びをしています。さくらんぼの年長さんは初めての事でしたが、それを感じさせないほどの勢いのある姿を見せてくれました。「どんぐり」や「両生類ハイ」など泥んこになりながらどの子も楽しそうに転げまわったり、力強く登っていました。リズムの後は芝山を1周するかけっこやリレーを楽しみました。どの子も白熱し、全力で取り組んでいました。さらに、さくらんぼ保育園が持って来た大綱での綱引き大会もとても盛り上がりました。

最後にはみんなで集まって歌を歌いました。さくらんぼ保育園の子たちの元気な歌声に触発されいつも以上に張りのある歌声を園庭に響かせていました。この交流での経験が弾みとなり、運動会に向けてより一層勢いが増しました。



車山縦走



ゆずの木・たんぼぼ交流

たんぼぼ保育園との交流は久々でしたが、今回は年中クラスも一緒に交流。わが園が誇る園庭目の前の「車山」の縦走に出かけました。自園の子どもたちは「いつもの山道」という勢いで足早に進む中、たんぼぼ保育園の子ども達は、どんぐり拾い、落ち葉集め、山の起伏も嬉々として楽しみ、山の魅力を堪能している姿でした。在ることが当たり前と感じていた山の素晴らしさを、子どもたちと共に五感を使って楽しむことをもっと大事にしようと思いました。

昼食後年中児がお昼寝の間、年長児はドッチボール、綱引きをして大いに盛り上がり、昼寝後には全体でリズムをしました。最後にみんなで歌った「狩人の合唱」の大きな歌声は、一日の交流の最後にふさわしく、子どもたちの心に響いたと思います。

久々の園交流は大人も保育を振り返る機会になり、その後「依存」「要求」「身体づくり」など議論を深めて職員会議が持てました。